

行政視察報告

産業建設常任委員会

H17.6.29~7.1

クリーンエネルギーを！

石川県白山市・北海道滝川市



石川県白山市の手取川七ヶ用水土地改良区の小水力発電システムと、北海道滝川市にある中空知衛生施設組合のバイオガス発電システムを視察した。

七ヶ用水発電所は一級河川手取川の右岸に位置しており、白山頭首工より取水し、農業用水を利用した流れ込み式発電所で、有効落差5.45m、使用水量15.0m³/秒で、最大出力630Kwは1年間に標準的な家庭1100戸分が消費する電気をおこすことができる。



建設資金は、15億1千8百万円で負担率は、国50%、県25%、土地改良区25%である。発電した電力は全量を北陸電力に売電しており、売電価格は年間4千万円になる。この施設は平成16年4月から運転を開始しており、農業用水の水資源を有効利用した環境に優しい小水力発電所である。

一方、滝川市は、環境・健康の都市宣言をしている人口

4万5千人の市で、環境保全型社会をめざし、ごみを資料とする再利用や、クリーンエネルギーの有効利用等に取組んでいる。この滝川市にある中空知衛生施設組合は、平成15年10月に3市2町で広域ごみ処理施設「リサイクルライン」を稼働させた。この施設はメタン

発酵施設、リサイクルプラザ、中継施設からなり、特にメタン発酵施設は生ごみをメタン発酵させてバイオガスを発電を行い、施設内の電気の一部をまかなっている。余剰分は年間2千万円で売電している。また、発酵汚泥は脱水乾燥後、肥料として利用されている。

今回の行政視察は、町が掲げている主要政策のひとつ、クリーンエネルギーや資源の再利用施設整備などに関わる有意義な研修であった。

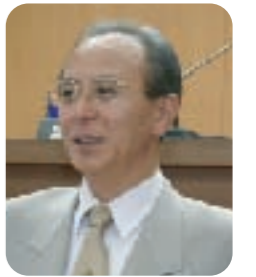
参加者

- 委員長 澤崎正義
- 副委員長 岡本行男
- 委員 舟橋貴之
- 坂井立朗
- 中川光久
- 高嶋清光



小水力発電所(白山市)

藤井忠則議員



ソウル市カンブクグとは

議員 4月に姉妹都市提携を結んだが、真の友好、永永い絆を結んでいこうとする町の決意と姿勢を問う。

幅広い分野で交流を期待

町長 協定書では、幅広い分野で交流することになっていくが、現在のところ、白紙である。今後の協議の中で、合意できたところから順次交流を推進し、民間レベルでの交流を期待している。

ガードレールの金属破片は

議員 ガードレールへの金属破片の付着に係る安全点検を実施しているか。

町では発見されていない

建設課長 町道では発見されていないが、当分の間、通常パトロールに際して、ガードレールの点検を重点的に実施したい。



改築が待たれる中央小学校体育館

今年度中に用地買収を

教育長 今年度中に家屋移転や用地買収を終了し、平成18年度の改築に着工できるように計画している。今後、地元自治会や関係地権者への説明会や用地交渉等を精力的に進めたい。

立山中央小学校体育館は、議員 昭和36年に建設され、老朽化も進み、かつ床面積が831㎡と狭い。改築に向けての進捗状況は。

次のような質問もありました

- ・ 小学校校舎の暑さ対策は。
- ・ 児童虐待と防止ネットワーク
- ・ 18年度から一般住宅にも火災警報機の設置が義務付けられるが。
- ・ グリーンパーク吉峰のバスを町営バスに活用できないか。
- ・ 尖山湯豊温泉に町営バスの運行を。
- ・ 敬老入浴券給付対象者の他に家族介護者にも入浴券を。
- ・ 危険庁舎の建て替えを。
- ・ 「当面、単独町制を進める」と発言するに至った心境は。
- ・ 保育所長経験者を児童福祉担当係(事務職)として管理職に。
- ・ 利田保育所と新川保育所の統合問題
- ・ 温泉の購入費があがって、グリーンパークの経営を圧迫しているが。
- ・ 携帯電話の不感地帯解消を。
- ・ 国際ガイド・ボランティアの育成を。
- ・ 三位一体改革の対応は。
- ・ ふれあい地域安全パトロール車はどう活用されているか。
- ・ 高齢者の交通事故防止対策は

